

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	乗用車販売店（営業担当）	・今後新型車が続々と出てくるので、メーカー全体でも順調な販売量が見込まれる。また自動車リサイクル法の施行を来年に控え、駆け込み需要の発生等が予想される。
		通信会社（経営者）	・不動産業界向けのシステム開発の伸びが順調であることから、先行きに期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・店舗を改装して商品構成も少し変え、商品も以前より見やすくなったので、少し期待できる。
		百貨店（売場主任）	・周辺地区の再開発が活発に始動する一方、他にも近隣地域で再開発の動きがあり、広範囲にわたって多くの人が周辺地域に集まるなど、にぎわいが出てきたことから、先行きに期待できる。
		百貨店（経理担当）	・今は最近になく不調であるが、これ以上悪くならないと考えられるほか、婦人服の動向をリードするキャリア層は動いているので、気温によっては今の状況を脱することができる。
		その他飲食〔コーヒーショップ〕（店長）	・来客数は厳しい状況であるが、客単価は少し上がってきていることから、先行きに期待できる。
		観光型旅館（団体役員）	・世界遺産登録で当地方へ注目が集まっており、活性化の機会であると期待が持てる。
		旅行代理店（経営者）	・年末年始出発の旅行の受付が、少し上向きである。
		タクシー運転手	・一部ではあるが企業関係の需要に活気が出てきたこともあり、この先他の業種に波及していく期待感がある。
		通信会社（社員）	・年末にかけては冬のボーナスも好調とみられている。それに伴って、テレビも売上を大きく伸ばすことが期待される。
その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・人気シリーズで、映画やビデオ作品と連動している書籍の売上が好調に推移することが期待される。		
住宅販売会社（従業員）	・一部の好立地でのマンションや一戸建は、新築、中古とも価格が下げ止まり、一部では上昇しつつあることから、先行きに期待できる。		
その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新築マンションの販売現場での集客数が、9月に入って上昇トレンドを描いており、前年、前々年を上回る状態であることから、年内の新築マンション購入契約は順調に推移する。		
変わらない	一般小売店〔時計〕（経営者）	・次々と市内中心部にオープンする大型商業施設がマスコミ等で話題を呼んでいるが、地元の良さを分かって買物をする客は急には増えないことから、今の状況が続く。	
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・カメラ業界ではデジタル化が進み、一度デジタルカメラを購入すると現像という作業がなくなることから、業界がますます弱体化していくことが懸念される。
	百貨店（売場主任）	・この秋にリニューアルした効果が売上に表われないということは、かなりの買い控えが起こっていると推測されることから、今後も厳しい状況が続く。	
	百貨店（売場主任）	・防寒用品はそれなりに動きそうであるが、クリスマスギフトの単価ダウンは避けられないと考えている。消費者のトレンドは安くて良いものであり、この傾向は特選系ブランドにも影響を及ぼすことが予想される。	
	百貨店（売場主任）	・歳暮時期になるが、特別良くなる要素はない。しかし、送料無料化や割引等のサービスにより、悪い部分に歯止めをかけられると考えている。	
	百貨店（売場主任）	・ボーナス商戦は厳しくなることが予想されるほか、近隣では新規出店もあり、オーバーストア状態になると思われる。また、この冬は暖冬が予測されていることから、防寒アイテムの売上増は見込めない。	
	百貨店（売場主任）	・底は打って徐々に回復しつつあるが、決して本調子ではない。そのような中でも、トレンド商品がボリューム層でも動いており、ファッションアイテムに対しての意識は高まってきている。購買につながるきっかけがあれば身の回り品の動きも本格化する。	
	百貨店（企画担当）	・秋物の動きの回復を期待したいが、今後も気温の高い状況が予想され、実需期を飛ばしクリアランス待ちにつながってしまう懸念がある。	

	百貨店（営業担当）	・各種の催し、宣伝などで、高級ブランド品の目新しさ、希少性が薄れてきたため、自分の物にしたいと考える客が減ってきていることから、今後も厳しい状況が続く。
	百貨店（サービス担当）	・原油価格の高騰による消費意欲の低下や、異常気象の影響で秋物商材の売行きが低迷しているが、その反面で愛知万博関連の商材への関心は大きく、純金の記念メダル等の問い合わせが多いことから、今後への期待は大きい。
	スーパー（経営者）	・夜間営業店を更に増やしており、惣菜、酒類、デザート類などの商品が売れている。今後もその傾向は継続すると思われるほか、昨年に比べて新米に値ごろ感があることから、しばらくは好調に推移しそうである。
	スーパー（広報担当）	・近隣に大規模店舗の出店も予定されており、厳しい環境は今後も続く。
	家電量販店（企画担当）	・9月、10月と運動会や行楽でビデオカメラなどAV機器は良くなるが、高額商品は伸び悩んでいることから、パソコンの新機種等に期待している。
	住関連専門店（経営者）	・来客数、店頭販売高は最悪の状態が続いているが、関西以外の遠方からの卸注文、インターネットの注文は増加傾向にあり、店頭販売の落ち込みを穴埋めしている。今後も同様の傾向が続くと予想される。
	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会では単発で大きな注文も来ているが、定例の団体の動向が不透明で、予約先行率もやや悪い。宿泊も大きなイベントがなく、不透明な個人客の動向に左右されることが予想される。
	旅行代理店（店長）	・今年のカレンダーの曜日配列から、連休効果が見込めないほか、年末年始の曜日配列が悪いことから、先行受注が芳しくない。
	タクシー運転手	・節約ムードは続いているが、企業については行事や催しが増えてきているので、プラスマイナスするとあまり変わらないことが予想される。
	競輪場（職員）	・本場開催については、購買単価は前年よりやや悪くなると予想されるが、場外開催においては、12月30日に公営四競技のなかで、一番最後に開催される特別競輪競走の競輪グランプリが開催されるため、購買単価が上がる。
	美容室（経営者）	・周りの店が、日曜日を休みに変更しており、客が周りの大手スーパーに流れてしまっていることから、今後も厳しい状況が続く。
	住宅販売会社（経営者）	・バブル期に住宅を取得している買換え顧客層が、全く動くことができずに停滞している。今後もしばらくは一次取得層をメインにマーケットは動いていく。
	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・年内入居が条件の住宅ローン控除の駆け込み需要も思ったより少なかったことから、今後も厳しい状況が続く。
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・10月、11月に競合店の出店があり、エリアとして集客力が高まるものの、来客数の減少などの影響もあり厳しい状況が予想される。
	コンビニ（経営者）	・近隣で6階建ての自社ビルを持っていた中堅企業が、郊外に本社を移転し、そのビルが空いたままになっているため、来客数の減少が見込まれる。
	都市型ホテル（支配人）	・宴会部門の予約、年末年始の予約はこれからであるが、出足は鈍いように感じる。
	都市型ホテル（営業担当）	・宿泊に関しては、修学旅行の取り込みなどで今のところ前年より良いペースで動いている。しかし、前年は実際の伸びが良かったが、今年は悪いと大体同じ程度になる予想である。一方で、宴会に関しては婚礼の落ち込みが大きく、一般宴会でのリカバリーができないため、前年をやや下回ることが予想される。
	旅行代理店（営業担当）	・他業界で人材確保が活発なため、労働条件の悪い旅行業界は敬遠される傾向が出てきている。また離職も多く、すでに現場では人材が不足している。これらは販売力に直結するため、先行きに影響を与えることが懸念される。
	競輪場（職員）	・入場者数については、横ばいから少しずつではあるが増加傾向を示しているものの、売上に関しては土日、祝祭日などでも増加がみられず、1人当たり購買単価の減少が続いていることから、当面は良くならないと考えている。
	その他レジャー施設〔球場〕（企画担当）	・プロ野球シーズンが終了し、コンサート、企業イベント等が主体の時期となるが、今年度は予定されていたコンサートが急きょ中止となり、代替のイベントも大型のものは期待できないことから、あまり多くの来場数は期待できない。

	悪くなる	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・同じ商店街のなかで4件閉店したことから、先行きの見通しは厳しい。
企業 動向 関連	良くなる	輸送業(営業担当)	・取引先の信頼も得てきており、仕事量が増え始めているため、今後もこの状況が続くと期待している。
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業(情報企画担当)	・得意先においては新年度または下半期のスタートでもあり、10~12月の年末にかけての引き合いが来ている。
		金属製品製造業(営業担当)	・一時は販売価格の値上げで得意先が減ったが、同業他社にまねのできない商品の提供や納期対応などで徐々に戻ってきていることから、先行きに期待できる。
		金融業(営業担当)	・プラスチック加工業は売上や利益等が回復する見込みであり、建機や自動車関連部品製造業についても、引き続き好調が持続することが期待される。
		不動産業(経営者)	・全般にまだまだ取引価格は低く、家賃も大きく上昇している訳ではないが、不動産の売買件数が身近では増えている。また、店舗も空室期間が短くなり、空けばすぐに埋まる状況になってきていることから、先行きに期待できる。
		広告代理店(営業担当)	・年末に向けて各ショッピングセンターともにプロモーション活動を行う予定がある。
		広告代理店(営業担当)	・近畿が他地区よりまだまだ厳しいということは広告出稿からも感じられるが、年末に向けて結構良い材料も出てきている。
変わらない	繊維工業(総務担当)	・海外からの安価な製品の量は増加傾向にあり、取引先のバイヤーは国産品の最低価格でも高いという印象を持っている。国内に製造工場を持つ立場として、これから先もますます厳しい環境になると懸念している。	
	窯業・土石製品製造業(経営者)	・年内は今の受注量を確保できると考えている。また金融機関のバックアップ態勢が好意的なので心強い。	
	金属製品製造業(総務担当)	・ゼネコンの受注競争がますます厳しくなっており、専門工事業者へのしわ寄せがまだまだ続きそうである。	
	一般機械器具製造業(経営者)	・取引先の投資計画は活発なものであり、短期的には悪い材料はない。この数か月間は比較的良好に推移すると思われる。	
	建設業(経営者)	・最近、大きな現場の売出しを行い、イベントの企画などで集客を高めるべく工夫したが、家を購入する客ではなく、イベント目的の客が多かったことから、これから2~3か月で良くなるとは考えられない。	
	輸送業(営業所長)	・航空貨物の配達は、年末までは好調が持続すると思われるが、運賃の値下げ要求や燃料代の値上げが止まらなければ、売上が増えても利益はほとんど変わらない。	
	輸送業(営業担当)	・一般貸切輸送において個別折衝を重ねる中で、定期輸送の確保拡大が徐々に進んでいるが、運賃等の条件面の見直しが行われていることから、今後も厳しい状況が続く。	
	不動産業(経営者)	・依然、建売住宅、分譲マンション用地の取得意欲はおう盛であるが、価格面でやや慎重な面がまだ残っていることから、厳しい状況が続く。	
	広告代理店(営業担当)	・受注が増えている企業が決まっており、それ以上は数が増えないことから、先行きに期待は持てない。	
	司法書士	・新規の会社設立や、不動産の売買、借り入れなどが少ない反面、資本減少や会社を解散するといったマイナス要素もあまりないので、現状維持の状態が続くと考えている。	
やや悪くなる	コピーサービス業(従業員)	・住宅販売が好調につき、関連する住宅機器メーカーからのパンフレット等、今後印刷需要が増える見込みがあるものの、各店とも店頭来客数が軒並み減少傾向にあることから、全体としては横ばいの推移が予想される。	
	繊維工業(団体職員)	・外注加工している染色などの工程で、原油価格高騰によるコストアップが提示されているが、製品価格への転嫁は全く望めないことから、先行きの見通しは厳しい。	
	化学工業(経営者)	・販売量が悪くなったり盛り返したりしながら、しばらくは不安定な状況が続く。昨年は良い月と普通の月があったが、今年は少し良い月と悪い月の繰り返しであることから、先行きは少し悪くなる。	
	電気機械器具製造業(企画担当)	・昨年は住宅ローン減税による駆け込み受注があったが、今年は昨年ほどの見込みはないことから、先行きの見通しは厳しい。	
	悪くなる	-	-

雇用 関連	良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・大口の発注が多くなり、人員配属が間に合わない状況が発生している。雇用のミスマッチは相変わらず解消の方向にはないが、雇用が拡大している傾向は顕著であり、今後に期待が持たれる。
	やや良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・今まで新卒採用のみでやってきた企業も、人材が不足気味なのか、中途採用も考え始めていることから、先行きに期待できる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数のうちパート求人の占める割合が低下し、フルタイム雇用にシフトしていく動きがみられることから、先行きに期待が持たれる。
		職業安定所（職員）	・窓口部門では、早く人を送って欲しいという要請が求人企業から多くなっていることから、先行きに期待できる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・中小企業の採用活動は少し苦戦している様子で、学内企業セミナーの参加希望社数は増加している。また新卒採用を復活させる企業も出てきていることから、先行きに期待できる。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新聞広告で今まであまり苦労せずに獲得できた商品でも、最近は価格が高いと掲載に結び付かないなど、求人広告に対する値引き要求が強くなってきたことから、今後も厳しい状況が続く。
		職業安定所（職員）	・自動車関連の製造増加が今後も続く。また中小企業からの求人も出始めているので、現在の状況を維持する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は相変わらず前年比で増加傾向にあるが、一般求人の約3分の1を派遣、請負業が占めており、不安定雇用の要素が高いため、しばらく注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・8月の新規求人の動きを前年同月比でみると、約7千人増えているが、そのうち約9割が正社員の求人であるほか、有効求人倍率が2か月連続低下しているものの、パートを除く有効求人倍率は順調に推移しているため、今後も同じような状況で推移していく。
	やや悪くなる	人材派遣会社（経営者）	・製造業における短期的な在庫調整の動きが出ているが、各社が在庫水準に非常にシビアになっており、現状は増産と減産の両方に対応できるポジションを取っていることから、先行きの見通しは厳しい。
悪くなる	-	-	